2009年11月29日 北海道新聞 朝刊全道版 掲載

地域から始めよう！低炭素社会

こどもエコ特派員「低炭素社会」取材レポート

大江さんと学んだよ！地域ごとの低炭素！

北海道新聞、中日新聞、西日本新聞の3紙合同企画「地域から始めよう！ 低炭素社会」プロジェクトでは、“こどもエコ特派員”を募集して、各地の低炭素施設を取材してもらいました。テレビでおなじみの演歌歌手・大江裕（おおえ ゆたか）さんも中部エリアの取材に参加！このツアーで、子どもたちはどんなことを感じ、学んだのでしょう。それぞれの取材レポートをご紹介します。

●九州→北海道　●北海道→中部　●中部→九州

九州→北海道

えこりん村（恵庭市）
西村 和之さん（中2）
福岡県太宰府市

低炭素社会を目指し自然と共生する「えこりん村」へ

北海道恵庭市にある「えこりん村」は、ハンバーグでおなじみの「びっくりドンキー」が運営するテーマパークです。食を通して安全・安心・健康を提供し、「食」「農業」「環境」「文化」をつなぐことを目指しています。「えこりん村」という名前は、エコロジーの「エコ」、動物や植物などとのつながり「輪（りん）」から来ています。村に入ると牧場や庭園が広がり、北海道らしい大自然が目に飛び込んできました。レストランの取り組みの一環で、店舗の食べ残しを集め、生ごみ処理機に投入し、堆肥（たいひ）にして植物や野菜作りに使用しているところを見学しました。そのあと「天ぷら油のにおいがしてきたな」と思うと、トラクターの排気口からのものでした。これは廃食油をBDF（バイオディーゼル燃料）に精製し、村の中でバスやトラクターの燃料にしているもの。しかもCO2排出量はゼロカウントです。ほかにも「ふゆみずたんぼ」での農薬に頼らない米作り、地中熱を使ったヒートポンプシステム、廃物を利用したアート作品の展示などがあり、まさに「リサイクル村」だと感じました。

一企業がここまで環境問題に取り組んでいることを知り、環境に対しての意識が高まりました。このような施設を体感し、一人ひとりの意識が変わることが低炭素社会の第一歩になると考えました。これまでも家庭でのCO2の減らし方について調査したことがありましたが、今度は小さなことからエコ活動を実践したいと思いました。

▲生きものとともにつくる“ふゆみずたんぼ”

モエレ沼公園が教えてくれた環境への取り組み

赤や黄色に紅葉した並木道を通り過ぎると、大きなモエレ沼公園が広がっていました。深呼吸すると体の隅々までが、おいしい空気を吸い込むことができました。モエレ沼公園の風がいろいろなことを教えてくれました。

モエレ沼公園は人間が出した莫大（ばくだい）なゴミ270万t を埋め立てたあとに造られた公園です。公園の芝生には農薬が使われていないそうで、ごろりと寝転がると草の良い香りがしました。小さな虫がたくさんいて、生態系を肌で感じました。この虫たちも地球に必要だから生きているということが分かりました。公園のシンボルはガラスのピラミッド“HIDAMARI”です。たくさん降る雪を中に貯蔵して、夏には館内を冷やし、冬には太陽熱を利用して保温房に利用しているそうです。スイッチ一つで快適に過ごせる生活にすっかり慣れていますが、それがどんなに二酸化炭素を多く排出しているかを考えさせられました。いつまでも冷暖房を電気や化石エネルギーに頼っていては、わたしたちが大人になるころには大変なことになると思いました。公園の樹木や草花は、人間が作り出した地球温暖化の原因CO2を吸収してくれます。わたしたちはこの自然に生かされていることが分かりました。

わたしは公園の空気と風景を体と心の中にたくさん詰め込んで、今までより視野が広がりました。環境のために何ができるのかを考え、今が実行するその時だと思いました。

▲公園のシンボル 巨大なガラスのピラミッド

モエレ沼公園（札幌市）
井手中 友里さん（小6）
福岡県福岡市

北海道→中部

中部国際空港（常滑市）
加藤 大地さん（小6）
北海道札幌市

環境に優しい空港 中部国際空港 セントレア

僕は、中部国際空港・セントレアを取材しました。特に心に残ったことは二つあります。まず空港の入口から中央に向かって歩いていくと、天井や壁にたくさんのガラスが使われていました。照明はほとんど使われていないのに、太陽の光が入ってきて明るくなっていました。空港の人の話では、そのガラスは汚れにくい光触媒ガラスで、掃除の水が少しで済むそうです。昼間は電気をほとんど使わず、水も減らせる。すごい工夫がされていて驚きました。

次に屋上へ行くと、スカイデッキにはまぶしくて大きな鏡のようなパネルが並んでいました。それは太陽光発電パネルで、なんと1,440枚も設置されていて、発電した電気は空港内の飛行機へ送られているそうです。二酸化炭素を減らすことにも役立っていて、さらにびっくりしました。この二つのシステムは、日差しの強い名古屋にピッタリだと思いました。

僕は以前名古屋に住んでいて、セントレアへは何回か行ったことがあり、その時には「きれいな空港だな」としか思いませんでした。でもこの取材で、環境に優しい空港だということがよく分かりました。セントレアの取り組みのように、僕たちができることを考えてみました。使っていない電気製品のプラグを抜く。スイッチはこまめに切る。水を出しっぱなしにしない。小さなことを積み重ねていって、環境に優しい社会になればいいと思います。僕もがんばります。

▲スカイデッキには、たくさんの太陽光パネルが！

小さな取り組みから大きな一歩へ！ エコポイントから学んだこと

取材地のエコマネーセンターに入った時、段ボールのにおいがすることに気が付きました。館内を見渡してみると、なんと、掲示板が段ボールでできていました。とても驚きましたが、「このようなところから小さなエコにつながっているのだな」と思いました。

エコマネーセンターは、若者が集まるショッピングモールの一角にあり、環境の勉強をしたり、車を使わず公共の乗り物を使うことなどによって集めたポイントを、植樹事業への寄付や、エコ関連商品と交換できる仕組みになっています。わたしもエコ活動で集めたポイントを植樹へ寄付してみました。植樹に寄付するともらえる葉っぱの形をしたシールを、「どんぐり～ずの樹」のボードに張りました。CO2を削減することは、美しい地球を守っているようで格好よく、未来の子どもたちにもよいことなので、気持ちいいと感じました。ちなみに、そこに張られていたシール全部で4,585本の木を植樹できたそうです。愛・地球博が開催された時から張られたシールがいっぱいで、大勢の人が頑張っていることを感じさせられました。

本当のことを言うと、最初は「エコって面倒くさそう」と思っていました。しかし今回の取材で、エコ活動が環境を守るのに、どれほど大切なことか気付きました。エコ活動は身近なことから参加できて楽しく、すてきなこと。わたしも小さなことから一つずつ取り組み、この先も元気な地球が続いてほしいと思います。

▲たくさんの思いが詰まったボードのシール

EXPO エコマネーセンター（名古屋市）
蒲 希美さん（中1）
北海道札幌市

中部→九州

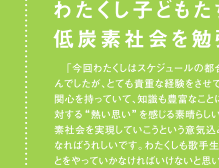
北九州エリア一帯（北九州市）
安藤 絢音さん（中2）
岐阜県多治見市

公害を克服！アジアにも広がる北九州市の環境モデル

「さすが環境モデル都市！」

今回、わたしは低炭素社会に向けての取り組みを取材してそう思いました。北九州市は、深刻な公害問題を克服して、今では環境モデル都市になったことを環境ミュージアムで勉強しました。大腸菌さえも生きられなかった海や煙の立ち込めていた空を、輝く青色に取り戻した市民・行政・企業の努力の大きさを知りました。今、叫ばれている地球温暖化などの環境問題。北九州市のように、みんなの力でよくすることができると思います。

北九州市には新旧のエネルギーを同時に見ることができる「次世代エネルギーパーク」と呼ばれる地域があります。そこには新エネルギーの一つとして風力発電機が11基あります。見学したときは海風を受けて羽根が大きく回り、辺りは遊歩道や公園に整備され、堤防で潮風を感じながら遊ぶなど、人々が楽しめる場所になっていました。北九州市では公害を乗り越えた経験を生かし、さまざまな技術をアジアに広めているとも聞き、まさに環境モデル都市だと思いました。現状のエネルギーとしては、石油備蓄施設があります。石油は今のわたしたちの生活になくてはならないエネルギー。ですが、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を出してしまいます。全国には備蓄基地が10個所あると聞きます。石油は限りある資源です。太陽光・風力などの自然エネルギーは限りがありません。いずれ石油が必要なくなるような本当の低炭素社会になればよいと思います。



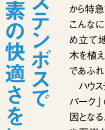
▲海風を受けて、たくましく回る風力発電機

ハウステンボスで低炭素の快適さを知り驚きました

「まるでオランダに来たみたい！」。駅に着くと、静かに広がる水の上にお城のような建物が浮かんでいて、夢のような景色でした。ここは博多から特急で2時間の外国「ハウステンボス」です。こんなにきれいな街も、20年前は荒れ果てた埋め立て地だったそうです。土を換え、40万本の木を植えて、今では生き物がたくさん住める自然であふれています。

ハウステンボスは国が決めた「次世代エネルギーパーク」の一つです。それは、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をたくさん出してしまう石油や石炭などではなく、いくらでもある太陽の光や風の力などの「新エネルギー」を身近に感じられる施設のことです。ハウステンボスには、10個所に全部で約7,000枚の次世代型ソーラーパネル（太陽光パネル）が置かれ、その規模は日本最大級だそうです。パネルは今までより少ない原料やエネルギーで作られていて、全部で900kwhの発電ができます。1年間の発電量は家庭で使う電力の250軒分で、約400tの二酸化炭素を減らせます。最新型の「ソーラーシップ」にも乗せてもらいました。屋根に太陽光パネルを70枚乗せて、充電した電気と合わせて使います。においもなくとても静かで、水の上を滑るように進み、とても気持ちよかったです。低炭素でこんなに快適なんてすごいと思いました。こんなふうに、地球に優しい新エネルギーをうまく利用していけたらいいなと思います。

▲快適かつとても静かな「ソーラーシップ」



ハウステンボス（佐世保市）
豊田 淳人さん（小5）
愛知県名古屋市

取材で学んだ「低炭素社会」。子どもたちの興味は、自分たちのまちへ。

ツアーに参加した子どもたちは、自分たちの住むまち以外の低炭素施設を取材し、その土地の気候風土に合わせた低炭素社会実現への取り組みを学びました。わたしたちは、雪や風、太陽光など、自然の恩恵のもとで暮らしています。この恩恵を将来も受け続けるには、そこに住む人々の努力が必要です。低炭素社会の実現は、一人一人の行動から。自分たちの住む地域のために、そして地球のために、できることから始めませんか。

わたくし子どもたちと一緒に、低炭素社会を勉強させていただきました！

「今回わたくしはスケジュールの都合もございまして、中部地区の取材しかご一緒できませんでしたが、とても貴重な経験をさせていただきました。子どもさんたちが環境に対してとても関心を持っていて、知識も豊富なことにびっくりいたしました。取材した写真や文章も、環境に対する“熱い思い”を感じる素晴らしいものとなりました。皆さんの環境に対する意識や、低炭素社会を実現していこうという意気込みによって、大人も子どももみんなが行動に移すようになればうれしいです。わたくしも敬手生活の中で、低炭素社会の実現に向けて自分にできることをやっていかなければいけないと思いました。」

スペシャルサポーター 大江 裕

「地球にやさしい・エコプロジェクト」ウェブサイト ➲http://www.hokkaido-eco.jp　hokkaido-eco　検索

「北海道」から始める低炭素社会

チーム・マイナス6%

特別協力／チーム・マイナス6%（環境省）　企画制作／北海道新聞社広告局